

業界初のハンドワーク対応 YAGレーザー溶接・切断機 「ウエルペンレーザー」を開発

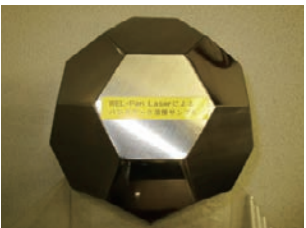
日本ウエルディング

日本ウエルディング(大田区矢口、細田史恵社長、03・5482・0600、<http://www.nihonwelding.co.jp>)は、昭和38年にアルゴン溶接機のメーカーとして創業して以来、50年以上にわたりその時代の最先端の技術を応用し、溶接・切断機の開発を行っている。

昭和52年には、現在のエアープラズマ切断機に代表される接触式プラズマ機の原点となる「ウエルペン」(接触式プラズマ切断・溶接機)を開発、主要各国に特許として認定を受けた。さらに、昭和58年、YAGレーザー発振器の独自開発に成功し、新明和工業(株)との販売提携により、安価・省スペース型3次元レーザー加工機を市場に投入、自動車試作プレス業界より多くの支持を得た。そして平成5年には、従来のレーザー溶接の概念を打ち破るハンドワーク対応型YAGレーザー溶接・切断機「ウエルペンレーザー」を発売、各方面



同社の主力製品「ウエルペンレーザー」



ハンドワークのサンプル

から「高品質溶接ができて、しかも圧倒的な使い易さ」と大変高評価を得ている。その後、モデルチェンジなどを行いつつながら、平成22年には従来溶接で難しかったアルミ材の溶接に対応した「ウエルペンレーザー」の新シリーズ「SRY-45P」を開発、現在も業界をリードすべく、研究開発を進めている。

同社の「ウエルペンレーザー」は「誰でも簡単に高品質の溶接ができたら・・・」という発想から生まれ、初心者や女性の方でもペンで描く感覚で熱歪み、溶接焼けが極めて少ない熟練工並みの溶接ができる。ことが最大の特長である。薄い材料でも焼け歪みが非常に少ない溶接ができ、溶接後の後処理を大幅に削減することにより生産性の向上が可能となる。また、ペン型でトーチの先端が溶接ポイントと接触しているため手振れも少なく、熟練不要で、小ロットの溶接には特にオススメしている。

同製品は、主に半導体関係、制御ボックス、工作機械カバー、食料機械関連、医療機器関連、建築金物、看板、装飾品関連等で使われている。

ご希望があればサンプル品の加工や溶接サンプルをお送りするので、ぜひご連絡いただきたい。